

社会環境と共存する塗料開発

Paint Development for Social Environment

執行役員
塗料事業部技術統括(自動車・工業)
田中 優

Masaru
Tanaka



平素より『塗料の研究』をご愛読いただき、誠にありがとうございます。小誌は弊社の日頃の技術開発、製品開発等の状況をご紹介することを目的に発行しております。内容等につきまして常日頃より皆さまからご意見やアドバイスをいただき、誠に有り難く存じております。

塗料の使用される目的、求められる機能は時代とともに変化してまいりました。この変化は塗料が社会貢献するための必然的なものであったと思います。

塗料がもっとも古く使用されよく知られているものに石器時代に描かれたアルタミラやラスコーの壁画があります。塗料のルーツは表現手段の材料であり、絵具やインキと同じルーツでありました。また、我が国では、漆塗りが縄文時代から始まったといわれています。漆塗りは、美観、素材の保護を目的としており塗料の機能を発現した最初期のものに位置付けられます。その後、塗料の機能に大きな変換期が訪れたのは、産業革命が起こった18世紀であり、鉄鋼構造物の耐久性を維持するために塗料が大きな役割を果たすこととなります。20世紀に入り、高分子化学の発展によって、多様な素材や用途のニーズに応えるため、重防食塗料、船舶用塗料、建築用塗料など多種多様な塗料が生み出されました。

近年も塗料は大きな革新を遂げております。その革新の牽引になっているのが、地球環境問題であります。弊社も環境負荷物質の軽減および資源保護に配慮した新技術・新製品開発を行っており、有害物質削減塗料として重金属フリー塗料、トルエン・キシレン等の有害有機溶剤フリー塗料の商

品群が充実してまいりました。また、塗料を使用させていただく際のエネルギーの削減を目的に塗装工程の削減、焼き付け温度の低温化等の塗装工程に適応した塗料の開発・設計に取り組んでまいりました。塗膜に求められる機能も新規意匠のみならず、生活環境の改善に貢献すべく遮熱、断熱、抗菌等の機能を付与した塗膜を社会に展開してまいりました。

地球環境、経済環境の変化と共に、物作りのコンセプトは常に変化していかなくてはなりません。そのために、弊社はグローバル展開の拡大をも視野に入れ、様々な地域、国、顧客ニーズに対応した塗料開発に取り組んでおります。

また、地域、国により安全に関わる法規制がありますが、環境負荷低減を実現する製品とサービスの提供により社会に貢献する企業であり続けるべく企業活動を推進しております。

以上の活動の成果の一つとして、このたび、大変喜ばしく名誉なことに環境負荷物質の低減を目的とした『耐食性が優れる非クロム型防錆塗料』で全国発明表彰(2012年)『発明賞』をいただきました。

弊社はこれからも“塗料”を通じて地球環境の改善に取り組み、地球の未来、人類の幸福に少しでも寄与できるよう研究開発を継続していく所存です。

今後とも皆様の一層のご支援、ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。